

鞍装古實

賤鞍

十二

内閣文庫			和書類
架	冊	號	
三	二	一七	
五	一	二	
函			

内閣文庫			和書類
架	冊	號	
五	一	一七	
函		二	

内閣文庫		
番號	和	17217
冊數	12 ( 12 )	
函號	154	174



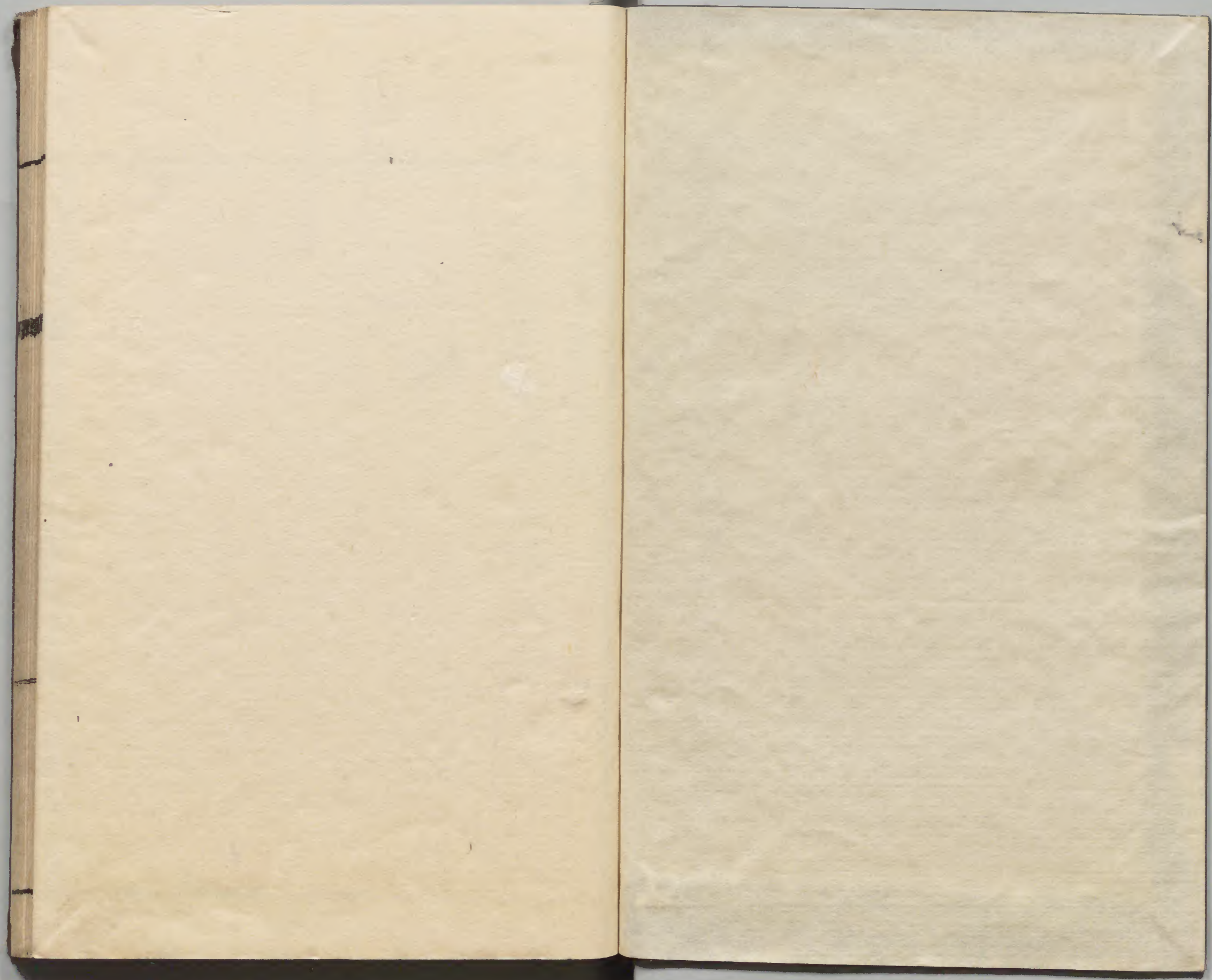
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

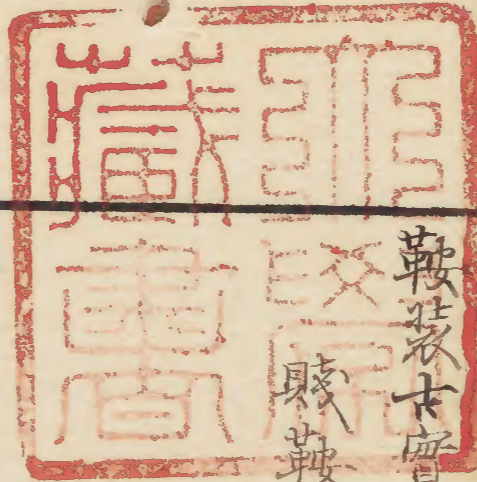
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





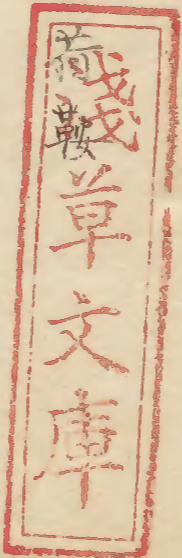


鞍袋古實卷第五目錄

賤鞍袋

雜鞍

徒鞍



鞍装古實卷第五

栗原信光 著

賤鞍装

今昔物語云頼信朝臣乃馬盗人を追とて自  
胡録ハコかきツ眞マコト厩ウマヤみりて行馬引出賤シツの鞍  
ありしを置く并乗ゆ一一人ヒト関セキふをさ  
る追ツり行と云と源平盛衰記云雜ザラ鞍ウマヤ置たふ  
馬ありて然く遠の市より重荷負せく還る  
と云小依の荷を結付る鞍と云く然るれを

佐々木高綱奪<sup>り</sup>伊豆國へ下ふ<sup>り</sup>荷鞍  
み乘<sup>り</sup>鞭をう<sup>り</sup>いと記せり然らば荷鞍と云  
雜鞍と云共<sup>に</sup>大同<sup>元年</sup>に<sup>て</sup>知<sup>り</sup>て<sup>は</sup>鞍賤隸の  
常<sup>に</sup>ふ<sup>り</sup>扱<sup>り</sup>入<sup>り</sup>鞍<sup>に</sup>色<sup>の</sup>賤鞍と云からん

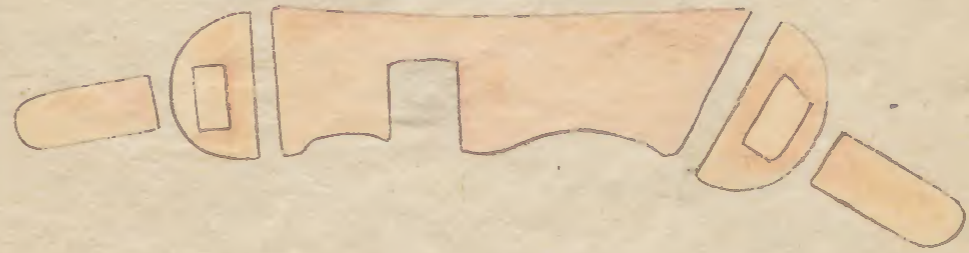
結鞍前輪



全後輪



全居木



此鞍文政八年十二月廿四日江戸花町賈人  
乃野小波くあをを觀る古色實ふ之口而  
年外の物たる疑ふへやく以購得去く熟思  
せり材左右より切合を致す以く結合せ  
せしハ古人結ひ鞍又むとひ鞍と名付しと  
疑ひ形し以く先師屋代輪池先生小質と先  
生拍手大に悦ひ筆をなす

書ひむる文乃るなりを結ひ鞍ふし乘し  
年の暮方と書く給く是依く定めく結鞍と

か以軍器考ふ飾抄小結鞍と云ふ乃か  
し云く不審と飾抄公卿より下衛府又位  
六位乃鞍装を記すあはは荷鞍雜鞍の  
み及し何るかかへし物色は軍器考の他志  
結鞍の荷鞍たることを知るるや  
世小永禄三年又月尾列大高兵粮入乃日小  
用元しと云鞍乃圖あり全く以鞍と形狀同  
去くし聊か以鞍より大形なり物色とも  
時乃荷鞍と云ふ乃を記し是れ也

全後輪



大高兵糧入鞆圖





全居木



享保寫本紋鱗形結鞆



今後翰



今居木

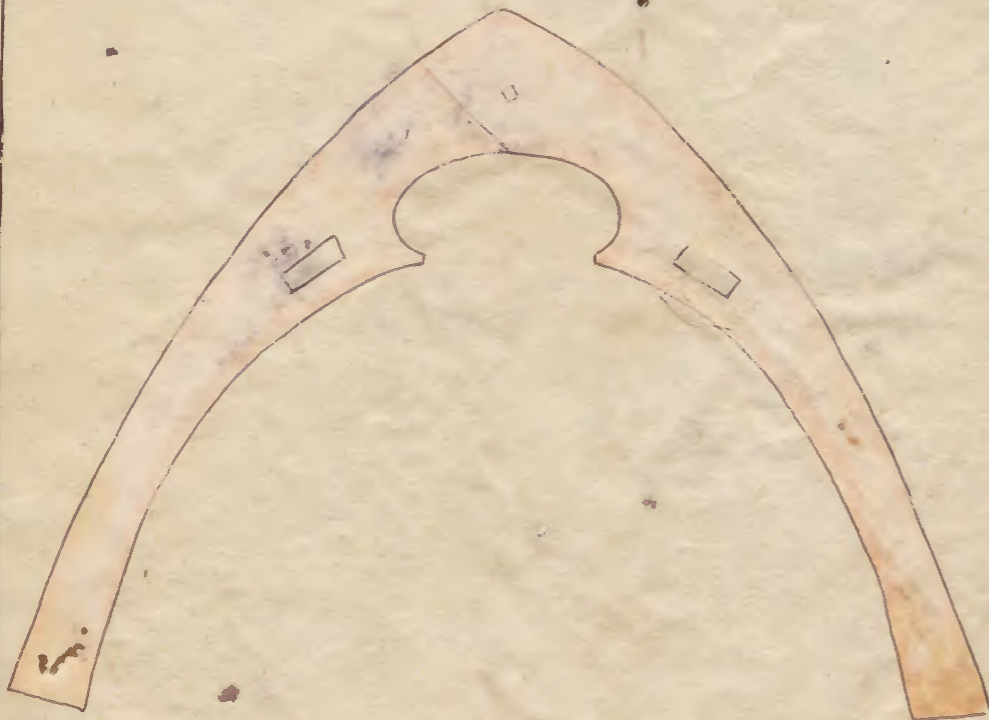


圖上ノ記志々云々轉橋合歡木を用ふ前後  
輪厚一寸二分前後輪共ニ木の二條  
を用ひて造るなり云云取内中云々切合を  
て其兩頭を貫き一木釘の頭乃痕内の方若  
左右を見せり云々云々輪を鉄テひ鉄釘  
を以て釘ツやめの上漆ニと見せり云々後  
木修補セり云々乃云々前後輪内外黒漆ニ  
錫の粉を交へ塗る錫ニ鱗ニ取テす入  
たり享保壬寅冬至日源君美識とあり君美

ハ新井筑後守なり是歳六十六歳軍器考ハ  
既ニ著述ス後ニも荷鞍ニ用ひテ鞍  
たるハを説クるは白石別ニ所見あり  
云々云々云々

今時世ニ用ハ於テ荷鞍ノ居木ナリ一ハ從古  
多ク荷鞍ニ居木ナリはシ鍔ツを以てテ鍔ヲ掛  
へテ依リ佐メ木高綱乃如ク荷鞍ニ乗テ長  
途ヲ旅行スへテ今ハ居木ナリけレハハ旅籠ヲ  
頂クせテ其上ニ乘リてテ旅行ス

今後輪



今所用荷輪

